

最近の大学改革の動向（「量と質の充実」について）

新木 聡

文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室長

最近の大学改革の方向性として、下村文部科学大臣は「大学力は国力」として「量と質の充実」を打ち出している。その一方、現状、我が国の大学は、各国における高等教育の爆発的な拡大に対して、その大学及び短大の合計数及び入学定員合計数が減少傾向にあるとともに、幾つかの課題を抱えている。

その中、安倍政権下では、教育再生実行会議を中心に、大学改革に向けた提言を矢継ぎ早に出し、文部科学省ではそれに基づく制度改善を行ってきた。

そのような対応に加え、今後は、さらに「大学による国際的な貢献」の進展及び「大学による地方の活性化」の進展に向けた取組が必要となっている。

以上のような、「大学教育の一層の質の向上」・「大学による国際的な貢献」及び「大学による地域活性化」等の目的の達成に向けて、ICTの大学教育への活用が持っている潜在力の高さに大いに期待している。

講演者略歴

平成8年	文部省(当時)入省
平成11年	生涯学習局社会教育課法規係員
平成14年	研究振興局学術機関課専門職
平成16年	大臣官房総務課行政改革推進室室長補佐
平成17年	北海道大学に出向 事務局総務部総務課長兼総長室長
平成20年	外務省出向 在オーストラリア日本国大使館一等書記官
平成23年	生涯学習政策局社会教育官
平成26年	高等教育局高等教育企画課大学設置室長